

IMF サーベイ

韓国・IMF 共催会議

韓国・IMF 共催会議： 世界経済におけるアジアのリーダーとしての 役割が焦点に

IMF サーベイ・オンライン

2010年7月9日



韓国・大田市での人工衛星組み立て作業：韓国・IMF 会議の開催都市である大田市は、多くの韓国の研究機関の本拠地である（写真：KARI/Yonhap）

- 世界金融危機からの回復における、アジアの先導的な役割について議論
- 世界レベルでの経済・金融政策構築において拡大するアジアの役割が議題に
- アジア加盟国との関係の転換を目指す IMF の決意を示す会議

世界経済におけるアジアの役割及び発言権を拡大すべく、7月12、13日の両日、国際通貨基金（IMF）及び韓国政府は、韓国・大田市で画期的な会議を開催する。IMF がアジアでこのような会議を開催するのは今回が初である。

各国財務大臣、中央銀行総裁、及び財界のトップなど、アジア全土から500人以上の要人が集うこの度の会議は、アジアの加盟国との関係の転換を図る IMF の決意を示すものである。

「アジア21：未来への展望」というテーマの下に開催される大田市での会議では、世界的な景気後退局面からの回復における、アジアの先導的な役割について議論が交わされる。会議では、金融部門に対する政策や、[アジア地域の低所得国の固有の課題](#)、更には世界レベルでの経済・財政政策構築において拡大を続けるアジアの役割といった事項について話し合いが行なわれる。

また、過去から教訓を導き出すとともに、将来に向けより良い関係を構築するための方策について協議を行う。韓国企画財政部の尹増鉉長官と共に会議の開会の辞を述べるストロスカーン専務理事は、「我々（IMF）が今後、アジア諸国、アジアの機関、及び地域機関との連携を継続するための方策について」協議する予定だと述べた。

アジアは現在、戦後最悪と言われた景気後退局面からの脱却において世界を先導しているが、その回復は今年上半期に渡り続いている。IMF は今週初め、アジアの経

済見通しを公表したが、アジア経済が輸出と堅調な国内民需に支えられていることを背景に、平均 7%から 7.75%へと上方修正を行なった。

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は最近の記者会見の席で、同会議が「アジア地域との関係を再構築するとともに一新し、良かれ悪しかれ過去の活動を評価する」機会だと述べた。

近年、IMF とアジアの関係は、10 年以上前のアジア金融危機を巡る記憶により損なわれているが、IMF は、この度の会議が、アジア加盟国との関係を改善し、一層の協力関係を構築するための重要な一歩となることを期待している。

7 月 8 日 IMF は大田市での会議に先立ち、香港で重要刊行物である「[世界経済見通し](#)」及び「[国際金融安定性報告書](#)」の最新版の発表を行なった。香港での発表はこれが初めてであり、IMF のオリビエ・ブランシャール・チーフ・エコノミスト兼経済顧問及びホセ・ビニャルス金融顧問が出席した。

トップが集う会議

「文化とイノベーションの街」と称される大田市は、韓国の多くの研究機関の本拠地である。現在韓国が、主要な先進並びに新興市場国から成る 20 カ国グループ (G20) の議長国を務めていることなどから、同市は会議の開催地に選ばれた。

G20 は、この度の金融及び経済危機を克服する過程で、国際的な経済協力の第一の協議の場として浮上した。前例の無い規模で行なわれた財政拡張、非伝統的な金融政策措置、更には金融安定理事会の設立など景気後退に対して行なわれた、一部の大規模且つ具体的な政策措置は、G20 の連携と断固たる対応が結実したものである。韓国は現在、G20 による国際レベルでの危機対応をリードしている。今年韓国は、11 月のソウルでの G20 サミットに向けた大田市会議をはじめとする一連の主要な会議の開催国となっている。

大田市では、情報のダイナミクスと市場の発達に関する画期的な研究で、2001 年にノーベル賞を受賞した経済学者のマイケル・スペンス氏がスピーチを、また著名な銀行家であるヨゼフ・アッカーマン氏が基調演説を行なう予定となっている。

また、世界各国の政府、金融、ビジネス、及び学界等からも多くの著名人が参加する。参加者には、出井伸之ソニー前 CEO、ビクター・フォン香港特別行政区国際商

業会議所（ICC）名誉会長、バングラデシュのアブドゥル・マール・アブドゥル・ムヒッド財務大臣、またビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団のジェフリー・ラム公共政策部門最高責任者が名を連ねている。

最終日のラウンドテーブル「アジア 21－世界経済の成長を先導する」には、タイのゴーン・チャティカワニット財務大臣、シンガポールのターマン・シャンムガラトナム財務大臣、韓国銀行の金仲秀総裁、アジア開発銀行の黒田東彦総裁、スタンダードチャータード PLC のピーター・サンズ CEO が参加する。また、G20 サミット韓国大統領特別委員会の司空壹委員長が、会議の閉会の辞を述べることになっている。

アジアとの関係の深化を図る IMF

IMF の高官では、篠原尚之副専務理事が会議に出席し、またアジアの政府関係者を招いて朝食会を開催する。先日就任した朱民特別顧問は「アジアの低所得国－明日の新興市場国への転換を目指して」と題されたセッションの最初のスピーカーとなる。

またこの度の会議は、IMF がより開かれた、対話を重んじ且つ加盟国の声に耳を傾ける機関へと変貌を遂げるための、継続した取り組みの一環である。IMF 専務理事は、韓国及び世界の学生が 100 人以上集まる対話集会を開く予定となっている。同専務理事は、最近数ヶ月で世界中で学生とのこのような対話の場を設けており、今回が 3 度目となる。ストロスカーン氏は、世界におけるアジアの役割並びに危機後の世界における IMF の役割について、学生の意見に耳を傾けたいとしている。

IMF とアジアの関係を深化させるため、IMF の高官はこれまで 1 年に渡り積極的なシャトル外交を行い、インドネシア、日本、韓国、シンガポール、インド、中国、香港特別行政区及びベトナムなど、アジアを頻繁に訪問した。大田市での会議は、今後数ヶ月で予定されている、ストロスカーン専務理事の一連のアジア訪問のひとつの機会と位置づけることができよう。